

Tour of Japan Race Previwe

JCL TEAM UKYO ツアー・オブ・ジャパン 4連覇を目指す

TOUR OF JAPAN 2025



D'AMATO



FANCELLU



GARIBBO



KOISHI



RACCANI



ZERAY



18-25
MAY

レース期間：5月18日~25日

総距離：769.5km

UCIカテゴリー：2.2

参加チーム：16チーム (1 PT, 13 CT, 1 NT, 1 CLUB)

出走選手数：96人

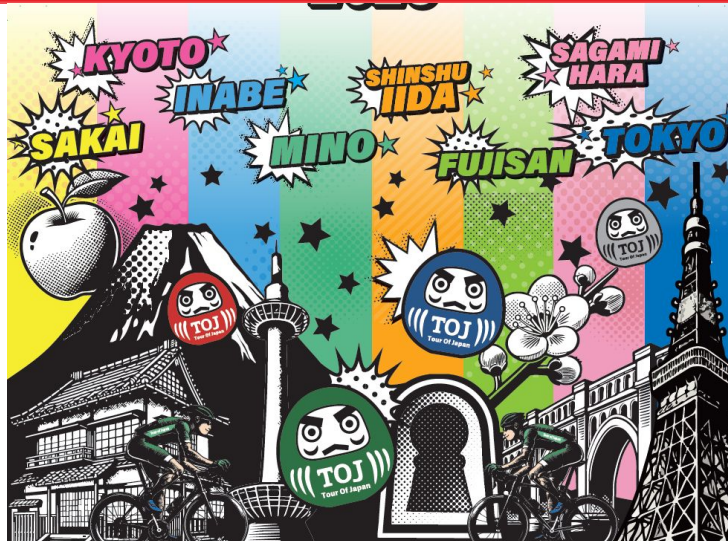
JCL TEAM UKYOメンバー：アレックス・ファンチェル、アンドレア・ダマート、ニコロ・ガリッポ、小石祐馬、シモーネ・ラッカーニ、ナホム・ゼライ

JCL TEAM UKYO監督：マヌエーレ・ボアロ

レース公式サイト：<https://www.toj.co.jp/>

JCL TEAMUKYO公式サイト：<https://jcl-team-ukyo.jp/>

Live：<https://www.youtube.com/@BPAJch/streams>



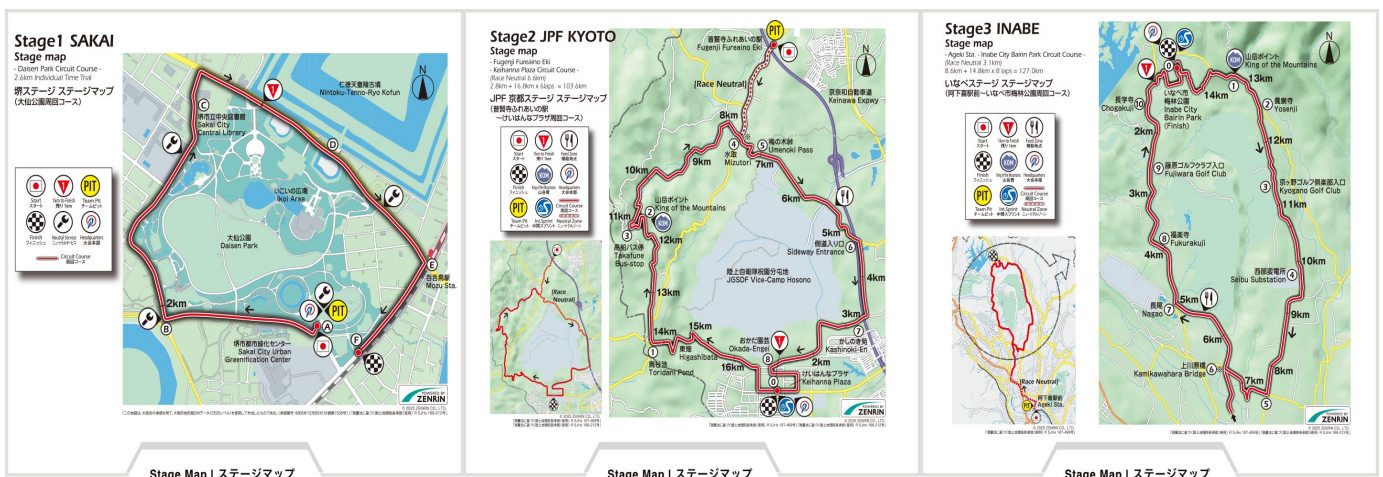
Tour de KumanoでNicolò Garibboが山岳賞を獲得した JCL TEAM UKYOは、日本最高峰のステージレース「ツアー・オブ・ジャパン」に向け準備万端です。

このレースは5月18日から25日にかけて開催され、短い TTに続いて7つのステージが行われます。

JCL TEAM UKYOの出場メンバーは、チームの主力選手たちです。小石祐馬は、前週に開催されたツール・ド・熊野の総合で6位に入り、今回はゼッケン 1番を着用します。これは、昨年 Giovanni Carboni がこのレースの総合優勝者であったためです。

総合順位を狙うのはアレッシェンドロ・ファンチェルとナホム・ゼライの 2人です。ファンチェルは今年すでに AIUla Tourとジロ・ダブルツォで総合 8位を獲得しており、ゼライはツール・ド・ルワンダでエリトリア代表として出場し、ステージ優勝を果たしました。

熊野で山岳賞を取ったガリッボも、ステージ優勝や各賞を狙って走ります。また、ラッカーニもクライマーとして強く、ツール・ド・台湾では総合 8位、ジロ・ダブルツォの第 1・第2ステージでは7位と好調です。スプリンターとしてはアンドレア・ダマートが出場。彼はすでに今年、ツール・ド・台湾とツアー・オブ・オマーンでそれぞれステージ 4位に入っています。



Stage Map | ステージマップ

Stage Map | ステージマップ

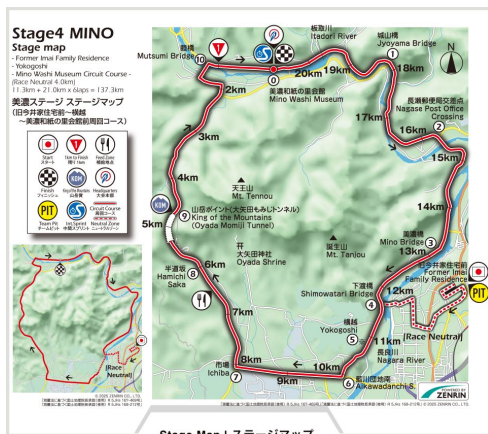
Stage Map | ステージマップ

前述の通り、ツアー・オブ・ジャパンはショート TTと7ステージで構成されています。

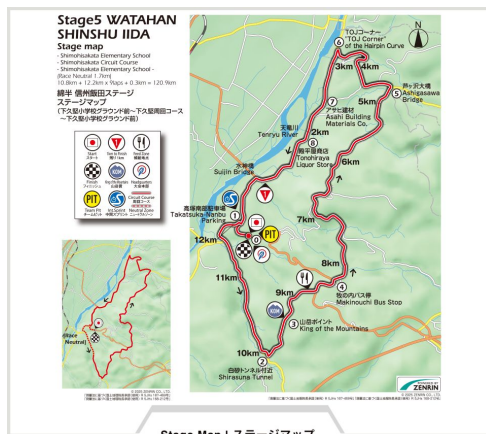
第1ステージは堺での平坦な個人タイムトライアル(2.6km)。非常に爆発力が求められるスタートになり、例年ではスプリンターが上位に名を連ねます。

続く第2ステージは京都で 103.6km。けいはんなプラザ周辺のサーキットを 6周回し、その中にある短い登り(1.2km、平均勾配4.2%)が2周目と4周目でKOM(山岳ポイント)として設定されています。フィニッシュは平坦基調です。

第3ステージのいなべは 127kmで、8週の周回コース。中には短く急な登り(900m、勾配8.8%)があり、勝負所となります。最後は小集団スプリントや残り周でのアタックで勝敗が決まりそうです。



Stage Map | ステージマップ



Stage Map | ステージマップ



Stage Map | ステージマップ

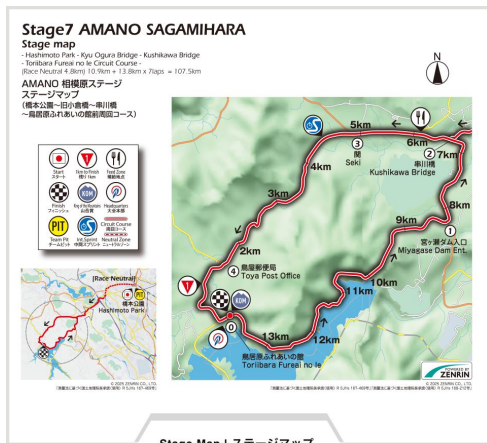
第4ステージは美濃で開催され、6周のコース内には 1.5km・平均勾配3.3%の登りがあり、最後 5kmは緩やかな下り基調。

第5ステージの飯田はパンチャーや登りを得意とする選手向けの周回コースで、各周に 2.2km・勾配6.3%の登りがあります。最後の登頂は残り 10km地点で、そこから下ってラスト 1kmは勾配4.2%。

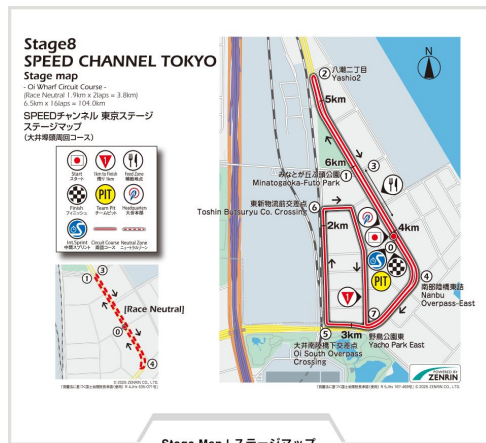
第6ステージの富士山が今大会もクイーンズステージ(最難関)。富士山の登りは非常に厳しく、最後の 11.7kmは平均勾配 10.1%、最大 14%に達します。このステージが総合優勝者を決めるでしょう。

第7ステージ・相模原は 109km。600m・勾配5.2%の登りがあるサーキットを 7周しますが、基本的にはスプリンター向けのコースです。

最終日は東京ステージ。完全に平坦な 104km(16周回)で、おそらく集団スプリントとなるでしょう。ゴール後、2025年ツアー・オブ・ジャパンの総合優勝者が表彰されます。



Stage Map | ステージマップ



Stage Map | ステージマップ

小石祐馬のコメント

このレースは我々にとって非常に重要です。日本チームとして、多くの日本企業のスポンサーにも支えられています。全8ステージすべてでベストを尽くします。今回は非常に強くいいチームで臨むので、やりたいことを実現できると信じています。

アレックスandro・ファンテルのコメント

高い目標を持って臨みます。昨年のように、カルボーニが総合、マルチェッリがスプリントで勝利したような成果を今年も目指します。クライマーもスプリンターも揃っているのも、毎日ベストを尽くします。いい結果が出せると確信しています。



歴代優勝者

2024 CARBONI Giovanni
2023 EARLE Nathan
2022 EARLE Nathan
2021 MASUDA Nariyuki
2019 HARPER Chris
2018 GARCIA Marcos
2017 PUJOL Óscar
2016 PUJOL Óscar
2015 POURSEYEDI Mirsamad

JCL TEAM UKYO ならびにこのレポートに関するお問い合わせ: KATAYAMA PLANNING株式会社
田村 遼(広報) Mail: tamura@kplanning.co.jp TEL: 090-44551-4021
増田 深雪(広報) Mail: m-masuda@k-planning.co.jp

